

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F101210100143	設置等組織名	地域創造学部地域創造学科
大学名	旭川市立大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	北海道	事業計画名	旭川市立大学学部新設事業

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		・令和5年 5月 人材ニーズを把握し学びに反映させるための企業や関係団体等との協議（～12月） ・令和5年 9月 新学部の施設、教育課程検討のための視察（～12月） ・令和5年 9月 （一社）旭川ワイルド・イングリッシュ・コンソーシアム連携校との単位互換、共同授業の検討開始 ・令和5年 10月 新学部設置認可申請支援業務・教員校員図書等実施計画策定業務委託契約締結 ・令和5年 12月 新学部の教育課程確定 ・令和6年 1月 新学部教員確保の取組、シラバス等の検討（～12月） ・令和6年 4月 新学部広域の方針検討開始 ・令和6年 6月 新学部広域・HP制作委託契約締結（1年目/2年目） ・令和6年 7月 新学部設置のためのニーズ調査実施（～10月） ・令和6年 12月 新学部教員校員図書等整備実施計画策定	・令和5年 5月 人材ニーズを把握し学びに反映させるための企業や関係団体等との協議（継続中） ・令和5年 9月 新学部の校舎整備（継続中） ・令和5年 9月 新学部の施設、学びのための視察（継続中） ・令和5年 9月 （一社）旭川ワイルド・イングリッシュ・コンソーシアム連携校との単位互換、共同授業の検討(継続中) ・令和5年 10月 新学部設置認可申請支援業務・教員校員図書等実施計画策定業務委託契約締結 ・令和5年 12月 新学部教員校員図書等整備実施計画策定（継続中） ・令和6年 1月 新学部の教育課程検討（～R7.3月） ・令和6年 1月 新学部教員確保の取組（～R7.3月） ・令和6年 3月 シラバス等の検討（継続中） ・令和6年 11月 新学部設置のためのニーズ調査実施（～R7.2月） ・令和7年 3月 新学部広域の方針検討開始 ・令和7年 3月 新学部広域・HP制作委託等の検討開始 ・令和7年 3月28日 計画変更承認日	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2 前編し		・令和5年 8月 新学部校舎基本設計、地質調査、測量（～2月） ・令和6年 2月 新学部校舎実施設計（～8月） ・令和6年 5月 建築許可認可申請（～10月） ・令和6年 1月 建築工事開始（～令和8年1月）	・令和5年 8月 新学部校舎設計（～R6.8月） ・令和5年 10月 測量調査実施 ・令和5年 12月 地質調査実施 ・令和6年 9月 建築確認申請（～11月） ・令和6年 12月 建築工事開始（～R8.1月予定）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
認可申請又は編出		令和7年3月 地域創造学部地域創造学科 設置認可申請予定	令和7年3月 地域創造学部地域創造学科 設置認可申請		
フェーズ1 後編し		・令和7年 4月 新学部広域要綱（HP、パンフレット、広告等） ・令和7年 4月 新学部進学相談会開催（～12月） ・令和7年 4月 認可申請に係る補正対応等		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2		・令和7年 1月 建築工事（～令和8年1月） ・令和7年 4月 備品購入（～令和8年2月） ・令和8年 2月 備品搬入		R6年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和8年4月 地域創造学部地域創造学科 開設予定（入学定員100人、工学関係及び経済学関係）			
フェーズ2 後編し				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3		・令和 8年 4月 新学部設置 ・令和 8年 4月 新学部進学相談会開催（～12月、以降毎年度開催） ・令和 8年 6月 コモンスペースオープン ・令和 8年 6月 新学部設置記念シンポジウム開催 ・令和 8年 8月 新学部の学びを知ってもらったためのものづくり教室実施（小学校、中学校、高等学校の児童生徒対象、以降毎年度実施） ・令和 9年 4月 地域との連携を深め、新学部の学びを地域に還元するための出張講義開始 ・令和 9年 6月 シンポジウム開催（関連テーマの基調講演と新学部の学びの発表等、以降毎年度実施） ・令和 9年 8月 新学部の学びを知ってもらったための出前講座実施（道内高等学校の生徒を対象に教員と学生がブレゼン、以降毎年度実施）		○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	旭川市立大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の 取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の進定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	旭川市立大学
-------------	-------	-----	--------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる☒ チェック

⑬

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の二に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- ☒ チェック
- ☐ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目としては、旭川商工会議所と（一社）北海道中小企業家同友会等の会員企業と連携し、各社の課題や新規事業をテーマとしたPBL型授業を複数開講する。また、旭川市と近隣市の自治体職員を講師として、地域の課題、将来展望などに関して、双方向型やPBL型の授業を開講する。卒業研究では、企業や自治体と協働して、各研究室（20研究室）で5名程度チームをつくり、企業や地域の潜在的課題やニーズを発見し（共感）、問題定義し、データに基づく解析と解決策の提示、プロトタイプを作成、テストを何度か繰り返し、課題を解決するといったデザイン思考を実践する取り組みを行う。プロトタイプの作成は、新学部を設置予定のファブラボを使用するが、設備が不足する場合は旭川市工芸センター、旭川市工業技術センター等の協力をいただくよう計画している。また、他大学等と取組の組み合わせは、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの参画校である旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川工業高等専門学校とともに、アントン・フナーシップや数理・データサイエンス・AIに関する科目に関し、遠隔授業、共同授業、単位互換などを具体的に実施するための検討を進めている。	・企業や自治体と連携した科目の設定に向けて、旭川商工会議所、（一社）北海道中小企業家同友会のほか、木工センター（家具業界の組合）、（一社）中小企業診断協会北海道と協議を進めている。 ・自治体との連携としては、旭川市と包括連携協定を締結したほか、近隣8町と協定締結に向けて準備を進めている。 ・こうした連携を生かし、卒業研究において、企業や自治体と協働して、各研究室（20研究室）で5名程度のチームをつくり、企業や地域の潜在的課題やニーズを発見し（共感）、問題定義し、データに基づく解析と解決策の提示、プロトタイプの作成、テストを何度か繰り返し、課題を解決するといったデザイン思考を実践する取組を行うことができるよう教育課程の準備を進めている。 ・プロトタイプの作成は、新学部を設置予定のファブラボを使用するが、設備が不足する場合は旭川市工芸センター、旭川市工業技術センターの協力を得られるよう協議した。 ・他大学等と取組としては、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの参画校との連携を念頭に、旭川工業高等専門学校と連携協定を締結した。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- ☒ チェック
- ☒ チェック
- ☒ チェック
- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・スキリングへの対応）
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
新学部における入学者選抜は、文系、理系を問わず受験しやすいように工夫する。個々の受験生において、文系、理系で得意科目が偏ることが多いが、得意科目が重点ポイントとなるような入学者選抜方法をとり、入学後に不得意分野を補えるようカリキュラムを構築する。上記の文理重点ポイントによる一般入試の他、総合型選抜、地域枠を設定した学校推薦型選抜を実施し、多様な入学者の確保を行う予定である。また、旭川工業高等専門学校をはじめとする高専からの編入を検討しており、これまでに培った知識と技能をさらに成長させるとともに、バランスのとれた教育を施し、社会に役立つ人材を育成する。本学ではこれまで、地域の中高校生や、生涯学習を希望する社会人のために、出張講義を実施しているが、新学部の教員も「IT教室」「起業塾」「未来のまちづくり」などの講義を担当する。また、ファブラボを設置し、地域の小中高校生がものづくりに参加できるように整備し、ものづくり教室を開講するなど、入学意欲を訴求する。加えて、（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの連携講座として「生涯教育・研修機会の提供」「地域再生に貢献する人材の育成・生涯研修」「旭川エリア小中高等学校児童・生徒の教育・研修」があるが、新学部も積極的に参画していく。	・新学部においては、多様な学習経路を持つ受験生がいることに配慮し、幅広く評価する方向性を決定した。 ・文系、理系を問わず受験しやすいよう、得意科目を重点加点する選抜方法や入試科目の検討を行った。 ・選抜方法について、既存学部と調整し、地域に配慮した推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜の方針を決定した。 ①学校推薦型選抜（小論文及び面接） ②総合型選抜（書類選考、小論文及び面接） ③一般選抜（得意科目を重点加点する） ④社会人、留学生、帰国生及び編入生の特別選抜 ・多様な入学者を確保し、入学後に不得意分野を補えるようカリキュラムを検討している。 ・地域の小中高校生を対象としたものづくり教室を開講し、入学意欲を訴求できるよう、新学部校舎に整備するプロトタイプ・ルーム（ファブラボ）の活用について検討している。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	旭川市立大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	旭川市立大学
-------------	-------	-----	--------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■

チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■

チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■

チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■

チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

■

チェック

b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施

☐

チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

へ

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
企業や自治体と連携した科目としては、旭川商工会議所と（一社）北海道中小企業家同友会等の会員企業と連携し、各社の課題や新規事業をテーマとしたPBL型授業を複数開講する。また、旭川市と近隣町の自治体職員を講師として、地域の課題、将来展望などに関して、双方向型やPBL型の授業を開講する。卒業研究では、企業や自治体と協働して、各研究室（20研究室）で5名程度チームをつくり、企業や地域の潜在的な課題やニーズを発見し（共感）、問題定義し、データに基づく解析と解決策の提示、プロトタイプを作成、テストを何度も繰り返し、課題を解決するといったデザイン思考を実践する取り組みを行う。プロトタイプの作成は、新学部を設置予定のファブラボを使用するが、設備が不足する場合は旭川市工芸センター、旭川市工業技術センター等の協力をいただくように打ち合わせ済みである。また、他大学等と取り組みとしては、（一社）旭川ウエルビーイング・コンソーシアムの参画校である旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川工業高等専門学校とともに、アントレプレナーシップや数理・データサイエンス・AIに関する科目に関し、遠隔授業、共同授業、単位互換などを具体的に実施するための検討を進めている。	・企業や自治体と連携した科目として、地域インターンシップ、地域創造演習Ⅰ、地域創造演習Ⅱ及び卒業研究の授業科目を計画している。 ・旭川商工会議所、（一社）北海道中小企業家同友会のほか、木工センター（家具業界の組合）、（一社）中小企業診断協会北海道等との協議を経ながら、地域インターンシップの企業実習先として、主に旭川市及び近隣の町に本社や主たる事務所を構える企業の協力により100名の受入枠を確保しており、今後も継続して協力企業を増加させる。 ・自治体との連携としては、旭川市と近隣8町と包括連携協定を締結したところである。 ・こうした連携を生かし、地域創造演習Ⅰ、地域創造演習Ⅱ及び卒業研究において、企業や自治体と協働して、5名程度、20のグループを作り、グループワークを通して、企業や地域の潜在的な課題やニーズを発見し（共感）、問題定義し、データに基づく解析と解決策の提示、プロトタイプを作成、テストを何度も繰り返し、課題を解決するといったデザイン思考を実践する取組を行うことができるよう教育課程の準備を進めている。また、小樽商科大学が音更町で実施したアントレプレナーキャンブに本学教員2名と学生3名が参加したことや、ノーステック財団、旭川市、旭川高専の協力の下、「第1回Startup Weekend 旭川」の開催を通して、アントレプレナーシップの科目及びPBL型授業の運営について検討した。 ・他大学等との取組としては、連携協定を締結した旭川工業高等専門学校と情報交換を行うなどの連携を進めている。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■

チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

☐

チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

■

チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

■

チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）

☐

チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
新学部における入学者選抜は、文系、理系を問わず受験しやすいように工夫する。個々の受験生において、文系、理系で得意科目が偏ることが多いが、得意科目が重点ポイントとなるような入学者選抜方法をとり、入学後に不得意分野を補えるようカリキュラムを構成する。上記の文理重点ポイントによる一般入試の他、統合型選抜、地域枠を設定した学校推薦型選抜を実施し、多様な入学者の確保を行う予定である。また、旭川工業高等専門学校をはじめとする高专からの編入を検討しており、これまでに培った知識と技能をさらに成長させるとともに、バランスのとれた教育を施し、社会に役立つ人材を育成する。本学ではこれまで、地域の中高校生や、生涯学習を希望する社会人のために、出張講義を実施しているが、新学部の教員も「IT教室」「起業塾」「未来のまちづくり」などの講義を担当する。また、ファブラボを設置し、地域の小中高校生がものづくりに参加できるように整備し、ものづくり教室を開講するなど、入学意欲を訴求する。加えて、（一社）旭川ウエルビーイング・コンソーシアムの連携講座として「生涯教育・研修機会の提供」「地域再生に貢献する人材の育成・生涯研修」「旭川エリア小中高等学校児童・生徒の教育・研修」があるが、新学部も積極的に参画していく。	・新学部においては、文系、理系を問わず受験しやすいよう選抜方法や入試科目の検討を行い、選抜方法については既存学部と調整の上、地域に配慮した推薦型選抜、総合型選抜、一般選抜を計画している。 ①学校推薦型選抜：書類選考、小論文及び面接 ②総合型選抜：書類選考、小論文及び面接 ③一般選抜 ・前日程：書類選考及び大学入学共通テスト ・後日程：書類選考、大学入学共通テスト及び個別学力検査（外国語又は数学の選択制） ④社会人、留学生、帰国生及び編入学の特別選抜（小論文及び面接） ・数学に関する知識の修得の有無が入学後の修学に影響するため、入学前に高校の数学Ⅱと数学Bの内容の補習授業（オンデマンド教材）を用意することとした。 ・新学部校舎にプロトタイプルームを整備することし、小中高生や社会人を対象としたものづくり教室の検討を進めている。 ・旭川市内の高校で実施している探求学習の伴走支援をR7年度以降も継続する。	

大学名	旭川市立大学
-----	--------

1.本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	旭川市立大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	旭川市立大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	200	200	200																
		入学者数	人	205	214	221																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	200	200	200																
		入学者数(B)	人	205	214	221																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.03	1.07	1.11																
	収容定員等	収容定員(C)	人	800	800	800																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	826	842	853																
		編入学者数	人	7	2	0																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.03	1.05	1.07																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定			開設			完成年度							
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		5,792	4,875	5,565	7,465	5,513	9,285	6,155												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	5,624
本事業による助成金の額(F)	千円	818,880
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	26,096

特記事項

大学の編入学定員 0 人とは、若干名を意味している。